

じんるいはつ げつめんちやくりく
 人類初の月面着陸から50年

空を見上げると、月がとてもきれいに輝いている日があります。月は、昔からたくさんの方が見上げてきました。そんな月へ、今からちょうど50年前の1969年7月16日、アメリカが3人の宇宙飛行士を乗せた宇宙船「アポロ11号」を打ち上げました。

打上げからおよそ4日後、3人のうちニール・アームストロング船長とバズ・オルドリン操縦士を乗せた月着陸船「イーグル」が、「静かの海」と呼ばれる月面の平地に着陸しました。人類は初めて地球以外の星へと降り立ったのです。その映像は、瞬く間に世界中を駆け巡りました。当時のテレビ中継を見たという方もいらっしゃるかもしれません。

月面に最初に降り立ったアームストロング船長は、「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」という有名な言葉を残しています。その後、地球と月との距離を精密に測るための装置や地震計などの科学観測機器を月面に設置したり、およそ20kg(キログラム)を越える「月の石」を採取したり、人類が月面に到達した記念にアメリカの星条旗を立てるなどの活動を行いました。

月面でおよそ21時間36分を過ごした後、月の周回軌道上で待機していた司令船「コロンビア」のマイケル・コリンズ司令船操縦士とともに、無事地球への帰還を果たしたのです。

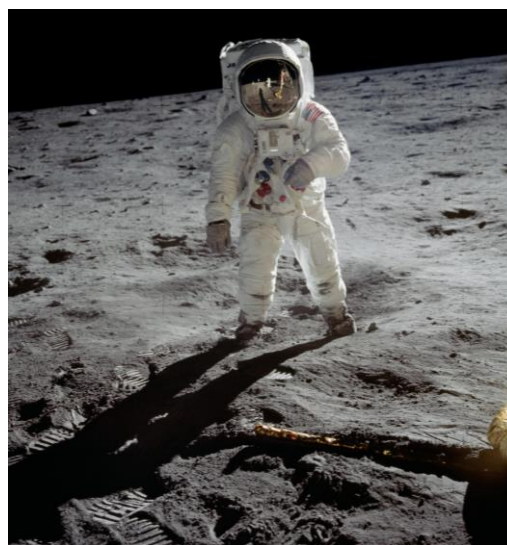
アポロ11号が月から持ち帰った「月の石」は、世界中の研究機関に送られ、分析されています。また、1970年に大阪で開催された大阪万博で展示され、日本中の人たちがこれを見に訪れたそうです。現在は、東京・上野にある国立科学博物館やアメリカのスミソニアン国立航空宇宙博物館などで展示されています。訪れる機会があればぜひご覧になってください。

(天文担当 近藤秀作)

今月のかがくのギモン：

アポロ11号の2人のほかに月に降り立った宇宙飛行士はいないのですか？

(答えは、当館ホームページをご覧ください)



月面に降り立ったバズ・オルドリン

画像提供:NASA



設置された観測機器(中央)と月着陸船「イーグル」(右)

画像提供:NASA